

大規模増殖場開発事業関連調査

(風間浦地区)

(要 約)

小田切明久・足助 光久

風間浦地区は下北半島北部にあり、津軽海峡に面している。本地区の沿岸漁業の中でコンブ、アワビ、ウニ等の磯根漁業の生産額は地区総生産額の42%を含め、磯根漁業に対する依存度の高い地区である。本事業ではこれら磯根漁業の重要魚種であるエゾアワビの増産を図るため、石材、異型ブロックを配置し大規模な増殖場の造成を行なったものである。

事業実施に先だち昭和53年～54年度の2ケ年間事前調査を行い、事業構想を策定後55年度から4ケ年計画で事業を実施し、58年度に完了した(下風呂2工区、蛇浦、易国間、大畑各1工区の計5工区)。造成された増殖場については順次その後の状況について調査を行なったので、その概要を述べる。尚調査結果の詳細については別途報告の予定である。

(1) 造成事業区の現況

本事業はアワビの棲場及び餌料海藻の着生をねらいとして石材及びコンクリート・ブロックを設置したものであり、砂礫地帯を対象に水深約4～12mに造成した。そして天然アワビ稚仔の沈着促進及び人工種苗放流によりアワビの増産を図ろうとするものである。

造成後の施設の状況は、現在まで一部石材及びブロックが漂砂により埋没している他は、施工時の状態を維持しており特に問題は見られなかった。

(2) 造成漁場に於ける生物の状況

ア 餌料海藻(コンブ) : 各事業区に於てコンブの遊走子が放出され始める10月下旬頃までに石材及びブロックが敷設されると、翌年の春には1年コンブが約50～100本/ m^2 の密度で着生し、当初計画4kg/ m^2 を上廻る結果が得られた。

イ 放流アワビの成長 : 易国間工区に放流された人工種苗アワビの成長は、約半年で12.8mmの増殻長が見られ(昭和58年12月～59年6月、S.L23.9～36.7mm)、当地先の天然アワビの成長と較べやや良い値を示した。

ウ 天然アワビ稚貝の発生 : 下風呂B工区では、昭和59年1月の調査時に造成後発生したアワビ稚貝が発見されており、特に殻長20mm台の1令個体が採取アワビ64個中29個と45%を含め、更に3令以下の稚貝は48個(75%)となり造成漁場に於ける沈着効果が見られた。

エ その他の生物 : 下風呂B工区では造成後エゾバフンウニの大量発生が起りコンブの被害を受けた為これらのウニの活用及び餌料海藻の着生促進を図る目的で発生ウニの移殖を57年12月12日～昭和58年3月に2,735kg及び58年6～9月に2,000kg実施した。

第1回目に移殖したウニについては昭和58年6～9月に約2,000kg、4,200千円の水揚となり副次効果が見られた。